

**Citation:** Wang Q, Guo Z, Zhao P, Wang Y, Gan T, Yang J. Chinese herbal medicines for acute pancreatitis. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2005, Issue 1. Art. No.: CD003631. DOI: 10.1002/14651858.CD003631.pub2.

**CRG名:** Upper Gastrointestinal and Pancreatic Diseases

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 19 December 2008

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 3, Update

**背景:** 急性膵炎は比較的好くみられる緊急の急性腹症であるが、本症に対する特異的な治療法はない。中国では長年、急性膵炎の治療に漢方薬が広く使用されてきた。その有効性を検討するために、数件の比較試験が実施されている。

**目的:** 急性膵炎に対する漢方薬の有効性と安全性を評価する。

**検索戦略:** 2002年9月、以下の電子データベースを検索した:コクラン・ライブラリ2002年第3号のCochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASE、AHMED (Allied and Complementary Medicine Database) およびSIGLE (System for Information on Grey Literature)。中国雑誌4誌および学会大会予稿集をハンドサーチした。言語に制約を設けなかった。2003年10月、2004年10月、2005年10月に検索を更新したが、新しいものは見出せなかった。2008年7月の検索更新で4件の研究を新たに含めた。

**選択基準:** 発表言語に制約を設けず、単盲検化、二重盲検化、または非盲検化にかかわらず、急性膵炎の治療における漢方薬に関するすべてのランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自にデータを抽出した。Jadadスケールおよび割り付けの隠蔽化を用いて試験の方法論の質を評価した。

**主な結果:** 漢方薬単独または漢方薬+ルーチン治療併用をルーチン治療と比較している15件のランダム化臨床試験(計845例の参加者を対象)を同定した。これらの試験はすべて中国語で発表されており、すべて入院患者を対象としていた。論文のうち3件のみがランダム化の方法を記述していた。解析結果に基づけば、死亡率、手術介入、多臓器不全、全身感染症について漢方薬にはコントロールを上回る利益があると考えられた。しかし局所の敗血症性合併症については治療とコントロールとの間で差を認めなかった。しかし試験の質は低かった。

**レビューアの結論:** 一部の漢方薬は急性膵炎に効くと思われる。しかし試験の質が低いためエビデンスが弱すぎることから、いずれの薬草も推奨できない。厳密にデザインされたランダム化二重盲検プラセボ比較試験が必要である。

(監訳 吉田雅博)

翻訳公開日: 09年11月16日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。